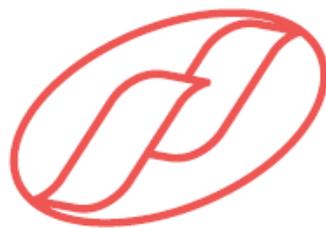


学校関係者評価報告書

2018 年度

学校法人 村川学園

大阪健康ほいく専門学校



【目次】

1. 目的
2. 2018年度学校関係者評価委員会開催概要
3. 学校関係者評価委員による自己点検・評価の重点評価項目への提言

1. 目的

学校関係者評価委員会（以下、当委員会）は、大阪健康ほいく専門学校 学校関係者評価委員会規程に基づき、大阪健康ほいく専門学校（以下、本校）の自己点検・評価の結果について客観性と透明性を高めるとともに、学外の関係者から専門的な助言を得るため、外部評価を実施する機関として当委員会を組織した。当委員会は、本校の自己点検・評価を資料として、自己点検・評価委員会の内部評価を参考にし、さらに関係教職員との具体的な意見交換等を通して、本校の学校運営・教育活動について検証・評価及び助言を行うことを目的として実施している。当委員会委員は本校の教育理念を理解し、人材育成等に精通した学外の関係者の中から校長が選考し、委嘱している。

2018年度は、2017年度の自己点検・評価報告書を資料として、当委員会としての評価・助言を取りまとめ、本報告書を作成した。

2. 2018年度学校関係者評価委員会開催概要

第1回

① 開催日時

2019年2月27日(水) (分科会) 10:00~12:00、14:00~16:30

② 場所

学校法人村川学園 3階会議室

③ 出席者（敬称略）

谷内 恵介(泉大津市総合政策部地域経済課総括主査)

栗林 義直(大阪調理製菓専門学校 学生保護者)

川邑 千佳(大阪調理製菓専門学校 学生保護者)

川端 花世(大阪調理製菓専門学校 ecOLE UMEDA 製菓総合本科3期生)

福村 壽之(元高石市社会福祉協議会 業務執行理事 兼 事務局長)

三浦 祐助(社会福祉法人 泉州三和会 幼保連携型認定こども園 信太保育園 園長)

・樽本 敦史(社会福祉法人ここの家 施設長)

・植原 清(元 常磐会学園大学 学長)

第2回

① 開催日時

2019年3月22日(金) (分科会) 10:00~12:00、14:00~16:30

② 場所

学校法人村川学園 3階会議室

③ 出席者(敬称略)(予定)

谷内 恵介(泉大津市総合政策部地域経済課総括主査)

栗林 義直(大阪調理製菓専門学校 学生保護者)

川邑 千佳(大阪調理製菓専門学校 学生保護者)

川端 花世(大阪調理製菓専門学校 **ecole UMEDA** 製菓総合本科3期生)

福村 壽之(元高石市社会福祉協議会 業務執行理事 兼 事務局長)

三浦 祐助(社会福祉法人 泉州三和会 幼保連携型認定こども園信太保育園 園長)

樽本 敦史(社会福祉法人この家 施設長)

植原 清(元 常磐会学園大学 学長)

3. 学校関係者評価委員による自己点検・評価の重点評価項目への提言

(1) 教育理念

【現状の課題点】

現状は充実した設備やカリキュラム等の教育環境は整備されており、理念・目的・育成人材像も教職員間、学生間にも周知されているが、それらの学外への周知に関しては大阪健康はいく共に改善の余地がある。学校案内書とホームページによる情報公開を行い、その内容も随時更新していくことが必要であると考えられる。

【学校関係者評価委員からの提言】

- ① 学生指導において、こういった理念を元にされていたと思うと感動した。これを続ける事で、**2025**年の目標を達成できるのではないかな。
- ② 現場で通用するような実践的な指導を頂いたことに感謝している。
- ③ 卒業生の現状の確認についてはどの程度把握できているか。山本五十六の格言にあるように、やってみせる、言ってみせて聞かせてさせる。その上ではほめる事で人は動くので、教育においてほめる事は重要であると考えられる。

(2) 学校運営

【現状の課題点】

中・長期的には学生数の増減や求められる人材像の変化等、外部環境の変化に対応できる体制を構築することが必要となる。教育課程編成委員会を組織図の中に組み込み、企業と連携しながら業界の動向をカリキュラム、人材育成に反映できる体制を整えることが必要である。

【学校関係者評価委員からの提言】

- ① 学校運営に関して特に課題点は見受けられない。健全な学校運営をしていると評価する。

(3) 教育活動

【現状の課題点】

教育活動の課題点と解決方法に関しては、教育課程編成委員会の本分であり、

教育現場の意見をくみ取りながら業界のニーズや動向を把握し、適格な教職員の育成・教育内容の改善を図る。そのための今後の取り組みとしては、教育課程編成委員会が機能するように、学校法人 村川学園の長期的なビジョンを認識した上で計画的な人材育成と授業内容のカリキュラムの改善を提案できる環境を作る。現場からの意見の汲み取りや、どこまでの業界を把握すればいいか等、どのような方法が当学園に適合しているかどうかを把握し、定着させるためにPDCAサイクルを回しながら検討を行う。

【学校関係者評価委員からの提言】

- ① 実習先の相手はこどもだが、保護者対応も含めた言葉遣いや礼儀が重要であると考える。
- ② 主体性が重要。こども達も失敗する事で学びがある。そういった保育が求められる。
- ③ 障害者福祉の現場は閉鎖的なイメージが先行しているが、実習を通じ現場を知る事が重要。実習は、学生にとっても施設としても現場を知ってもらうよい機会となる。

～大阪健康ほいく専門学校 分科会～

【現状の取り組み】

附属の「すこやか認定こども園」でこどもとの関わり方や実習日誌など保育教諭から指導を受けて実施している。社会人としてのマナーが重要で、挨拶ができるかどうか、上司の指示に従って動けるのか、コミュニケーションはとれ

ているのか等、校外実習や社会でも必要となる力を身に付けられるよう実施している。

観察実習、部分実習、責任実習と段階を踏んで、体系的に構成している。

【学校関係者評価委員会からのご意見】

校外実習では、すぐに設定保育を実施する事は難しいが、失敗を恐れずに挑戦してみるように促している。手遊びやピアノが苦手な場合も、回数を重ねて慣れていくしかないと考えている。その中でカバーできるのが元気の良さ、挨拶することである。校外実習を経験することで、職を諦めてしまうような校外実習はもったいないと感じている。

校外実習では、障害福祉の分野を知ってもらうきっかけになっていると感じている。実習という機会をお互い、どのように活用するべきなのかは毎年の課題。動画やニュースでマイナスのイメージがあるため、現場で知ってもらいたい。

(4) 学習成果

【現状の課題点】

現状としては就職率や、学生の就職活動状況は把握できている。

就職率の向上に加え、就職をゴールとした教育内容ではなく、当学園で習得した保育を通じた自己実現が社会のどのようなことに貢献できるのか、当学園が長期的なビジョンを描ける場の一つとなることが重要であると考えます。

これらの課題を解決するために、卒業生の退職事由の把握、卒業生からの意見を取り入れ、学生が学校に何を望んでいて、就職先ではどんな能力が求められているのかを的確に認識できるように努める。

【学校関係者評価委員会からの提言】

- ① 保育現場は、研修中に退職するケースも見られるなど離職率は高い。原因を追求し、ステップアップできるような体制づくりが必要。
- ② 校外実習時の巡回面談により、聞き取りを行って頂き、実習を有意義にできるよう工夫している。

～大阪健康ほいく専門学校 分科会～

【学校関係者評価委員からのご意見】

先の見通しが見つからない学生が多いため、次どうすればよいのかを提示してあげることが重要。

実技はピアノに関わらず得意なことを発表するスタイルに変更している。どこへ行っても就職ができる時代のため、携帯を変えるような感覚で転職する学生も多いため、キャリアアップを構築する事が重要。

(5) 学生支援

【現状の課題点】

利害関係がない卒業生の意見は公平であり、今後の当学園の改善方法を示す重要なヒントになると考えられる。協力的な卒業生は当学園にいい印象があるため、評価の高い意見を聞けるかもしれないが、重要なのは不満を持ちながら卒業した生徒もいるに違いないため、そういった卒業生がなぜ不満を持っていたのか、どこを変えればよかったのかという意見を得ることができる場を設ける工夫が必要である。

【学校関係者評価委員からの提言】

- ① 退学率を抑えるための対策として、こまめに連絡を取る事に共感した。自社新入社員が、心の病気にかかる者が例年より多かった。月1回のフォローアップ面談など、より一層の細やかなケアが重要だと感じている。

(6) 教育環境

【現状の課題点】

インターンシップを検討中ではあるが、校内に実習可能な保育園を有しているため、学外でのインターンシップが本当に必要なのかどうかを視野に入れながら、慎重に検討する。

【学校関係者評価委員からの提言】

- ① 充実した設備を用いた、在校生と卒業生の交流の場を設定する事で双方にメリットがあると考え。今後卒業生との連携が必要であると考え。

(7) 学生の募集と受け入れ

「学生募集」

入学検討者のニーズに合わせた進路相談会の実施

- ・体験入学
学校説明、施設紹介、学費相談を含めた体験を実施。
- ・平日見学会
電話問い合わせ時に日時を相談し、随時受け入れ。

志望者からの問い合わせ

- ・SNS の活用
SNS の活用が近年増加傾向。電話だけでなく、公式ホームページやLINE でのやり取りを実施。

「高等学校等への情報提供」

- ・在校生出身高校への定期的訪問
生徒の適切な進路実現のための情報提供。就職内定、入学時の情報共有。
 - ・高等学校への「出張授業」
学校の希望に沿った出張授業の実施。高校生に職業理解を深めてもらう場の提供。
- ・高等学校教員に対する学校見学会・研修会の実施
高等学校教員に対する研修会の実施や、高校生が参加する見学会や体験入学を見て頂く場を提供。

【学校関係者評価委員からの提言】

- ① 高等教育、保育料の無償化について対象校となるような情報収集が必要である。

(8) 財務

【現状の課題点】

高等教育の負担軽減の機関要件を満たすためには、その要件に際して、今後財務状況の情報公開が求められる。ホームページ上で公開する準備が必要となる。

【学校関係者評価委員からの提言】

- ① 校長が一本化している事で、足並みを揃えて同法人の関連学校が集まり協議できている。18歳人口が減少する中でも、どういう学生を育成するか、

学園三訓の意味を理解し指導する事で道は開かれ、安定した学校運営ができると思う。

(9) 法令等の遵守

【現状の課題点】

今の状況では特に課題点は目立っていない。しかし情報管理、特に個人情報の取り扱いは一つ間違えると信頼の失墜につながる。現段階でも表に出ていないだけで問題がないとは言い切れない。今後もセキュリティに関しては教職員だけでなく、学生も含めて組織全体で意識を高めていく。

【学校関係者評価委員からの提言】

- ① 特に課題点は見受けられない。健全な運営をしていると評価する。

(10) 社会貢献

【現状の課題点】

ボランティア活動は学生にとっては貴重な社会の体験となるため、当学園では推奨しているが、学生からの活動内容の報告をくみ取る仕組みが不十分であることが課題である。それらの就職活動への強みとなるだけでなく、自分の可能性の幅を広げるヒントになる。ボランティア活動を評価するだけでなく、それらの体験が貴重であることを気付かせ、様々な知的好奇心を助長し、行動を促す取り組みが必要であると考えられる。

【学校関係者評価委員からの提言】

- ① 産官学接続について、地元泉大津市と連携し宣伝として何か取り組みを行うことができれば望ましい。
- ② 地域が抱える問題について、例えば商店街の活性化において、商店街と学校をつなぐ役割を担えればと考えている。

これらの課題に対し委員から頂いた提言を真摯に受け止め、教職員一丸となり一つひとつ課題を解決し、業界を牽引する人材の輩出に取り組んでいく。